



## Microsoft Azure での展開

- [前提条件とガイドライン \(1 ページ\)](#)
- [Azure での Cisco Nexus ダッシュボードの展開 \(2 ページ\)](#)

### 前提条件とガイドライン

クラウド展開は、Nexus ダッシュボードリリース 2.0.2b 以降でサポートされています。以前のリリースは [物理アプライアンスとしての展開](#) で説明された物理フォームファクタのみをサポートします。

Microsoft Azure で Nexus ダッシュボードクラスタを展開する前に、次の作業を行う必要があります。

- [デプロイ概要](#) に記載されている一般的な前提条件を確認して完了します。
- Azure フォームファクタが規模とアプリケーションの要件をサポートしていることを確認します。

クラスタフォームファクタに基づいて、拡張性とアプリケーションの共同ホストは異なります。[Nexus ダッシュボードキャパシティプラン](#) ツールを使用して、仮想フォームファクタが展開要件を満たすことを確認できます。

- Azure アカウントとサブスクリプションに適切なアクセス権限を持っている。
- SSH キーペアを生成します。

キーペアは秘密キーと公開キーで構成され、Nexus ダッシュボード VM に接続するときに ID を確認するためのセキュリティクレデンシャルとして使用されます。Nexus ダッシュボードノードを作成するときに、公開キーを入力するように求められます。

putty などの外部ユーティリティを使用して、クラスタのキーペアを生成できます。

# Azure での Cisco Nexus ダッシュボードの展開

このセクションでは、Microsoft Azure で Cisco Nexus ダッシュボード クラスターを展開する方法について説明します。

## 始める前に

- [前提条件とガイドライン \(1 ページ\)](#) に記載されている要件とガイドラインを満たしていることを確認します。

---

**ステップ 1** Azure Marketplace で Cisco Nexus ダッシュボード製品に登録します。

- a) Azure アカウントにログインし、<https://azuremarketplace.microsoft.com> に移動します
- b) 検索フィールドに「Cisco Nexus ダッシュボード」と入力し、表示されるオプションを選択します。  
[Nexus ダッシュボードの Azure Marketplace] ページにリダイレクトされます。
- c) [今すぐ取得 (Get it now)] をクリックします。
- d) [プランを選択 (Select a plan)] ドロップダウンで、バージョンを選択し、[作成 (Create)] をクリックします。

**ステップ 2** [Basics] タブで、サブスクリプションの詳細、リージョン、およびパスワードを入力します。

Home > Marketplace > Cisco Nexus Dashboard (preview) >

## Create Cisco Nexus Dashboard ...

Basics ND Settings Review + create

### Project details

Select the subscription to manage deployed resources and costs. Use resource groups like folders to organize and manage all your resources.

Subscription \* ⓘ  ACI-AZURE-QA107

Resource group \* ⓘ   [Create new](#)

### Instance details

Region \* ⓘ  West US

Password \* ⓘ 

Confirm password \* ⓘ

SSH public key \* ⓘ 

 [Learn more about creating and using SSH keys in Azure](#)

Review + create

< Previous

Next : ND Settings >

- [サブスクリプション (Subscription)] ドロップダウンから、これに使用するサブスクリプションを選択します。
- [リソース グループ (Resource group)] ドロップダウンから、クラスタの既存のリソース グループを選択するか、[新規作成 (Create new)] をクリックして作成します。
- [リージョン (Region)] ドロップダウンから、テンプレートを展開するリージョンを選択します。  
これは、リソース グループと VNET を作成したのと同じリージョンである必要があります。

- d) ノードのパスワードを入力して確認します。  
これは、各ノードのレスキューユーザに使用されるパスワードと同じです。
- e) **[SSH public key]**フィールドに、[前提条件とガイドライン \(1 ページ\)](#) セクションの一部として生成したキーペアの公開キーを貼り付けます。

ステップ 3 ND設定クラスタの詳細を入力します。

[Home](#) > [Marketplace](#) > [Cisco Nexus Dashboard \(preview\)](#) >

## Create Cisco Nexus Dashboard ...

Basics **ND Settings** Review + create

Node Name \* ⓘ **a**

Cluster Name \* ⓘ **b**

Virtual machine size \* ⓘ **1x Standard D16s v3**  
16 vcpus, 64 GB memory  
[Change size](#)

Image Version ⓘ **c**  ▾

Virtual Network Name \* ⓘ **d**

Subnet Address Prefix \* ⓘ **e**

External Subnets \* ⓘ

**⚠** Configuring external subnet with 0/0 is a security risk and it is advisable to use specific subnet(s) or IP Address(es).

NTP Server \* ⓘ **f**

DNS Server \* ⓘ **g**

Search Domain \* ⓘ

App Network \* ⓘ **h**

Service Network \* ⓘ

**i** Review + create

- a) ノード名を入力します。

テンプレートは、ノード名プレフィックスを使用し、各ノードに一意的なホスト名を作成するために1、2、および3を追加した各ノードで3ノードクラスタを展開します。

b) **クラスタ名** を指定します。

クラスタ名は、展開するすべてのノードで同じである必要があります。

c) **[イメージバージョン (Image Version)]** ドロップダウンで、最新のリリースが選択されていることを確認します。

d) **[仮想ネットワーク名 (Virtual Network Name)]** フィールドと **[サブネットアドレス プレフィックス (Subnet Address Prefix)]** フィールドに VNET の名前を入力し、その VNET 内のサブネットを選択します。

入力した名前の VNET が存在しない場合は、作成されます。

e) **[外部サブネット (External Subnets)]** フィールドに、クラスタへのアクセスを許可する外部ネットワークを指定します。

たとえば、0.0.0.0/0 は、どこからでもクラスタにアクセスできます。

f) **NTP サーバ** 情報を入力します。

g) **DNS サーバ** と **検索ドメイン** 情報を指定します。

h) **アプリケーション ネットワーク** と **サービス ネットワーク** を提供します。

これらは、Nexus ダッシュボードとそのプロセスで使用される内部ネットワークです。

たとえば、172.17.0.1/16 および 100.80.0.0/16 です。

i) **[確認して作成 (Review + create)]** をクリックします。

この製品 ページが表示され、設定の概要が表示され、クラウド形成テンプレートを起動できます。

**ステップ 4** VM の展開が完了するのを待ってから、VM を起動します。

**ステップ 5** (任意) パスワードベースの SSH ログインを有効にします。

デフォルトでは、キーベースの SSH ログインのみが各ノードで有効になっています。パスワードを使用してノードに SSH 接続できるようにするには、パスワードベースのログインを明示的に有効にする必要があります。これを行うには、Azure から各ノードの VM コンソールに接続し、クラスタの導入時に指定したパスワードを使用してレスキュー ユーザとしてログインし、次のコマンドを実行します。

```
# acs login-prompt enable
```

**ステップ 6** クラスタが健全であることを検証します。

クラスタが形成され、すべてのサービスが開始されるまでに最大 30 分かかる場合があります。

a) いずれかのノードにログインします。

```
$ ssh rescue-user@<node-ip-address>
```

b) クラスタが稼働していることを確認します。

任意のノードにログインし、acs health コマンドを実行することで、クラスタ展開の現在のステータスを確認できます。

クラスタが収束している間、次の出力が表示されることがあります。

```
$ acs health
k8s install is in-progress

$ acs health
k8s services not in desired state - [...]

$ acs health
k8s: Etcd cluster is not ready
```

クラスタが稼働している場合は、次の出力が表示されます。

```
$ acs health
All components are healthy
```

c) Nexus ダッシュボード GUI にログインします。

クラスタが使用可能になったら、ノードの管理 IP アドレスのいずれかを参照してアクセスできます。管理者ユーザのデフォルトパスワードは、Nexus ダッシュボードクラスタの最初のノードに選択したレスキュー ユーザパスワードと同じです。

初めてログインしたとき、パスワードを変更するよう求められます。

---